

# サラリーマンの余暇意識と服装行動との関連

京都女子 家政 紀 安子

目的 現代は、飽食、成熟の時代と言われているが、経済環境の変動、情報社会への脱皮、そして、産業優先から生活重視へと社会全体が大きく方向転換している。生活者は時間の活用への関心を持ち、旅行やレジャー・スポーツ・健康等への関心の高まりは、当然衣生活を多様化し、T・P・Oに対応する服種も増えると思われる。本研究では、働く青年男子の生活意識や服装行動を調査し、余暇生活との関連について考察を試みた。

方法 近畿地区に在住するサラリーマン(20代) 235名を対象として、1987年8~9月に配布留置法により調査を行った。主な調査項目は、生活条件、余暇意識、余暇行動、ファッション意識、衣生活態度、衣生活行動等である。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析、クラスター分析によって、サラリーマンの余暇に対する意識と被服行動の関連を検討した。

結果 生活条件と余暇意識の因子分析を行い検討したところ、現在行っている運動、趣味の費用、休みを過ごす場所、運動着の着用年数に関連がみられた。さらに、被服着用意識、態度についてクラスター分析を行い類型化を試みたところ、7グループがみとめられ服装によって「気分が左右される」というグループは衣料費は多く、余暇生活にも積極的な傾向を示す。「気分が左右されない」ものは、その逆であった。若いサラリーマンは服装について関心と楽しみたいという積極的意欲をもっているが、実生活では流行遅れのもので経済的理由から着用している。現代の若者はファッション意識も高く、余暇についても積極的である反面仕事に対しても責任感や自己主張をもつこと加明らかになった。